

会議録（要旨）

会議名称	第6回 豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会
日時	2024年11月26日（火）13:30～15:30
会場	豊岡市民会館 3階 ギャラリー
出席者	〔委員長〕 山下委員長 〔副委員長〕 土出副委員長 〔委員〕 井原委員、大倉委員、岸本委員、衣川委員、結城委員 〔事務局〕 観光文化部文化・スポーツ振興課参事 福井、課長補佐 藤田 市民会館参事 藤原、係長 吉岡 新文化会館整備推進室長 村田、室長補佐 中村、真島 （株）シアターワークショップ佐藤、長谷川
欠席者	〔委員〕 木村委員、〔アドバイザー〕 藤野氏
傍聴者	1名
議題等	1 開会 2 協議・報告事項 （1）新文化会館整備について （2）これまでの検討経過について （3）豊岡市新文化会館管理運営計画（素案）について （4）その他 3 閉会
会議資料	・ 第6回豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会次第 ・ 豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会（第6回）資料

(開会前に西上副市長あいさつ)

昨年度来、検討委員の皆様にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。併せて、新文化会館の整備についてお伝えしたい。「文化会館は本市の都市機能として必要なものである」という考えのもと、事業を進めてきたが、物価上昇や技術者不足という社会情勢の変化により、事業費のさらなる高騰は避けられなくなった。現在計画している機能・規模のまま新文化会館を整備することについては慎重にならざるを得ず、あらゆる可能性を排除することなく再考することを9月議会にて市長より表明した。新築した場合のコストや、機能・規模が十分でない整備となった場合のリスク等を総合的に考えた結果、新築ではなく、現市民会館の大規模改修による長寿命化を議会で提案する方向で考えている。委員会を含めたこれまでの検討をできる限り、改修内容に生かしていくよう考えている。

(審議結果は次のとおり)

1 開会(あいさつ)〔山下委員長〕

久々の委員会である。当初、7月に委員会を実施し、10月には管理運営計画策定の予定であったが、副市長からお話があった通り情勢の変化があり、サウンディング調査や建築事情の厳しさから整備方針を改めて見直す結果となったようである。詳細は事務局から説明いただく。新しい施設の管理運営に関して、積極的に忌憚なき意見を頂戴してきた。ハードの方向性に変更があっても、「いま、市民にとって何が要るか」という点について、管理運営のコンセプトや目指すべき方向は変わらないのではないかと、個人的には考えている。現市民会館も耐震性能には問題ないとのことであったので、将来も含めて良い施設になったら良いと考えている。管理運営計画検討委員会での議論内容も、今後生かしていくということで、市民が鑑賞や活動を楽しむ、他施設とのネットワークで良いものにしていく等、そのような方向性は変わらない。ハードの変更についても、この委員会での議論を生かして検討していただければよいのではないかと考えている。これまでの議論をまとめた形で管理運営計画(素案)が作成されている。本委員会後に管理運営計画(案)としてまとめ、さらに市の方で計画として策定する流れとなる。新築ではなくなるということで残念ではあるが、本日を最後の委員会として皆様の意見を頂戴し管理運営計画(案)をまとめていきたい。

2 協議・報告事項

(1) 新文化会館整備について(事務局説明)

施設整備の方向性について、計画通りの建替え、機能縮小や規模縮小による建替え、現市民会館の機能維持のための改修、機能向上も含めた大規模改修などの6つの案から検討した。工事期間の短さ、コスト等、あらゆる面から検討したが、3度の入札不調等を踏まえ、機能を向上も含めた現市民会館の大規模改修をすることが方向性として最も適しているという判断をした。この内容については12月議会にて市長が表明し、議会の承認を得てから更なる再スタートとなる。併せて、2025年度末をもって現市民会館を一旦休館する方向で考えている。

発言者	意見等
委員	長寿命化の後、何年ほど使用できるようになるのか。また、改修中は4年間使えないということで間違いはないか。施設が変わらない中で、新しい文化の萌芽をどう育てゆくか。改修により市民会館の利便性はどのように向上するのか。
事務局	改修後、コスト面を含めた目安として20年の活用を目標としている。結果としてはそれ以上維持される可能性もある。改修中の利用については、議会での議論の後に、近隣市町の状況等、代替施設について具体的に検討していく。改修内容について、利便性を向上する点としては、舞台面を広くする、収納を増やす、バリアフリー対応、客席の入れ替え等が候補である。その他、通常の改修として天井の改修、照明・音響設備の更新等も行う予定である。
委員	現市民会館は音響性能が良くないという声も多いが、改修によって改善されるか。

事務局	当然、現在より良くしたいという目標を定めているが、どの程度良くなるかは今後、設計の段階での検討となる。
委員長 事務局	改修に向けての簡単なスケジュールと、市民参加の考え方を確認したい。まずは基本設計を発注し、来年度1年間かけて詰めていきたい。その中で基本構想、基本計画の内容を盛り込んでいきたいと考えている。市民の意見を聞くことは当然必要であると考えているため、どのような形になるかの検討は今後になるが、市民の意見を反映させていく。施工の人員不足への対策として、設計・施工一括発注を検討している。
委員長	これまで議論してきた内容を尊重いただき、改修の中でどう生かしていくか、基本設計の中で検討いただく。そういった前提で管理運営計画も取りまとめたい。

(2) これまでの検討経過について（事務局説明）

(3) 豊岡市新文化会館管理運営計画（素案）について（事務局説明）

発言者	意見等
委員	「新文化会館」という名称は、今はもはや建替えたものではなく、改修したものを指す言葉と理解したらよいか。現在検討している計画は建替えないとなった場合にはまとめたがなしということにするのか、改修した場合でも生かしていくのか。
事務局	現時点では、改修した施設ではなく、当初想定していた新築の施設を指しているが、改修の方向で決定した場合は、そこにこの管理運営計画をできるだけ生かしていくこととなる。
委員	新文化会館の管理運営計画を策定するにあたって、現市民会館の課題を改善していく方向で意見を出してきた。改修であっても、そのような性質の計画であれば、その内容が適用できるのではないか。ただしハード的には、現施設を今後も活用するのであれば、駐車場からの動線や搬入については設計段階での改善を期待したい。
委員	新施設ができるかどうか、わからない中での計画というのがどうあるべきか難しいが、改修であっても、この管理運営計画素案が反映されれば市民にとって使いやすい施設になるだろうと考えている。
事務局	現状の不具合やご要望について、取りまとめを行っているため、今後の基本設計段階において、改善を検討していく。
委員	新築を前提に話し合いをしてきたため、方針転換にあたって、管理運営計画の内容がどのように反映できるか、一部削らなくてはならないのではないかと考えていた。しかし、ソフトがベースになっているので、ハードがどうなってもしっかりと反映していただけたらと思う。
委員	新築でも改修でも運営についての検討内容が無駄にならないことがわかった。改修の場合、ホールの座席数が大きく減らないことは良いこととも捉えられる。改修期間中に豊岡市の文化を育てて、会館の生まれ変わった際に提供できる文化が良いものとなるようにしたい。
委員	組織計画のうち組織図について、芸術監督やプロデューサーといった事業企画の専門家を配置することは考えないのか。管理運営の基本方針の中にも専門人材の配置を目指すとする。直営の場合、館長は市職員であり専門家とは言いがたく、また異動もある。改修して良かったと思われるような運営にするためには、組織の活性化や新たなサービスの提供に向けた一歩踏み込んだ取り組みが必要なのではないか。
委員長	現時点で組織図に芸術監督やプロデューサーといった肩書まで追加できるかということ、委員会の権限としては難しいかと思うが、委員会からの希望として、事務局には専門人材の関与に関する追記を検討いただきたい。
委員	運営委員会にプロデューサーを置く、といった書き方はできるかと思うがいかがか。

委員長	委員会の意見としてお伝えし、記載の方法については事務局に調整をいただきたい。
委員	会館の事業に限らず、市民活動を把握し繋ぐようなコーディネーターが必要だと感じている。市民が自らそうした役割を果たそうとしても、上手くいっていないのが現状である。
委員長	文化コーディネーターを新施設の事業部門に配置するのか、市の一部署として設けるのか、やり方は複数考えられるが、事務局にはぜひ今後検討いただきたい。また市民参加を誰がどのような手順で進めていくか。専門職大学との連携も同じである。この計画にどこまで記載するかという点は別にしても、非常に重要な点である。
委員	改修後まで4年も経ってからでは専門職大学との連携は難しいのではないかと。既に学生の気運は下がってしまっている。当初は大学の1期生卒業と同時に新文化会館がオープンするということで期待していたが、現在学生たちは豊岡市民プラザや養父市のやぶ市民交流広場 YB ファブ、新温泉町の文化体育館 夢ホール等を使用しており、現市民会館の利用は少なく、もはや興味を失いつつある。オープンまでに精神的な距離はさらに離れていってしまうだろう。改修期間中に市民や学生の気持ちをつなぐ事業をやっていく必要があるのではないかと。2025年度から何等かの事業で学生が関わらせていただくような状況がないと厳しいと思う。私たちもワークショップの動員等、市民会館と学生を繋げる努力をしてきたが、大学との連携について、中途半端にするのではなく、盛り上がり、気運をどのように醸成していくかも含めて本気で行っていかないといけない。
委員長	方針転換により市民の気運に水を差すように見えてしまう中、どうつないでいくかは重要である。素案への計画の記載というより、具体的な動きとして検討していくべき点だろう。専門人材に関する記載等については、事務局と正副委員長にて調整をさせていただいたうえで、管理運営計画(案)としてまとめることとして、本委員会としては一旦の締めとしたい。
委員	新文化会館の建設予定地は現在、工事が中断している状態だが、今後どうなるのか。
事務局	公園とするか、駐車場とするかなど活用方法は未確定であるが、仮に、情勢が変化し何年後かに再度新築となった場合の候補地となる可能性も踏まえ、少なくとも建造物を建てることは予定していない。今後、市民から意見を伺いながら慎重に検討する。
委員	改修のコストが果たしてどれほど抑えられるか。気運の面からも、現市民会館が閉館した後に改修工事までもが入札不調になるといった「最悪のシナリオ」が起こらないよう、覚悟を持って臨んでいただきたい。
事務局	入札については、技術者の確保等の面に最大限気を配り、決死の覚悟で臨みたい。また、現在の工期想定は最長の場合であり、より短縮できるよう努力していく。開館までの気運についてもしっかりと考えていきたい。地域を盛り上げていくという視点で、より良いものを作るために、専門職大学とも一緒になって取り組みたい。
委員長	本日の意見をもとに、管理運営計画(案)を事務局とともにまとめていく。計画以外にも、これまでの委員会の意見を踏まえて整備を進めていただきたい。

(4) 豊岡市新文化会館管理運営計画(素案)について(事務局説明)

発言者	意見等
委員長	最後の委員会のため、一言ずつ感想や思いがあればいただきたい。
委員	実はもともと新文化会館への関心はそれほど強くなかったが、委員となって大変良い機会をいただけたと思う。せっかくここまで来たので、広く文化に関わる賑わいを生み出す施設になってほしい。
委員	これまでの検討を振り返ると、人材の話が常にあった。専門人材、長く居続け

委員	<p>る人材、若い人材。改修にも時間がかかる中で、どのように人材を確保していけるのかが大事だと思う。</p>
委員	<p>基本構想時のワークショップから検討に参加してきたが、完成までの期間が延びてしまったことは、逆に考えれば市民の意見をたっぷり聞ける時間がさらに生まれたということでもある。有効に活用して頂きたいと思う。</p>
委員	<p>市民会館がなくなることに少し寂しさを感じていたので、残ると聞き嬉しい気持ちもある。建築のデザイン的にも格好良く、価値ある建物である。</p>
委員	<p>市民会館がなくなるということに対する寂しい気持ちをエネルギーに、新文化会館に関われたらと思い委員会に臨んでいた。市民ワークショップの事例紹介にあった可児市文化創造センターala は、文化芸術の殿堂としてではなく、社会包摂型劇場経営を推進している。ハレの舞台、イベントの場所というだけではなく、社会包摂まで広く考えて運営している施設があることを知り感動した。大きな金額をかけて整備する施設であれば、その意味がどこにあるかというのが委員会で考えていくべきテーマであると考えていた。今回の計画では、福祉の話にまでは踏み込まず、あくまで文化施設としての計画になったが、社会包摂の視点も踏まえながら運営していく必要があると思う。先ほど、事務局より「建設することが目的ではない」という話があったが、まさにその通りだと思った。完成後に何を、何を指すかが大切である。オープンまでの時間を有効活用し、そのような運営ができる人材を育てる時間にできたら良い。例えば、専門職大学の卒業生をたくさん採用して、開館に向けて一緒に動いていくようなことができたら、面白い街になるだろう。</p>
委員	<p>現市民会館は素晴らしい建築である。建築を専門にしている知人から、この建築がどうなるのかよく尋ねられていたため、残ることになりそうではおっとしている部分もある。若い人には使いづらいと言われている市民会館だが、最近は使いづらさをあえて楽しむようなレトロブームもあるので、そのように愛されていく施設にできたら良い。専門職大学との連携についても、学内には社会包摂を専門にしている研究者や、文化施設で勤務していた教員など専門家が多くのもの、自分たちの関わるポイントがないと思ってしまうのが現状。関わり代を作っただけならば喜んで参加するだろう。KIAC、市民プラザ、江原河畔劇場等、他の文化施設との連携も重要であると考えているので、それらの施設の意見も踏まえながら整備を進めていただきたい。</p>

4 閉 会（あいさつ）〔土出副委員長〕

全 6 回の検討委員会が本日で終了となる。行政、専門家、関係者の視点が伺える機会となった。今後は議会、行政で検討されていくことになるが、今後も力になりたく、また皆様のお力もお借りできればと思う。